# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第 30 号　主のご降誕（2025 年 12 月 25 日）発行

## 人間であることを祝う

### 祝・降誕

**ヨアキム　川上　剛　神父**

ルカ福音書は、救い主イエスが、旅の途中、家畜小屋で生まれたと伝えています。ヨゼフとマリアは、もっと良い場所を探しましたが、ローマ帝国の強引な人口調査の命令のために、町に人があふれ、出産にふさわしい場所が得られなかったからです。カトリックの幼稚園では毎年「聖劇」の中で、子どもたちがこのことを保護者に伝えて、クリスマスを祝っています。

クリスマスは単なるキリストのお誕生祝いではありません。信仰の祭りです。一人の具体的な人間、ナザレのイエスという方において、神が人となったという信仰を祝う日です。これは考えて見れば、とんでもない信仰ではないでしょうか。ベトレヘムという片田舎で貧しく生まれ、ほとんど無名の三十年間を過ごし、人々の中に出かけて活動をしたのはわずか三年足らず、世の中の矛盾、社会悪など何一つ解決したわけでなく、かえって、逮捕され、裁かれ、最後には死刑囚としてはりつけにされ、殺されてしまった。そういう一人のユダヤ人、ナザレのイエスにおいて、神が人となったとキリスト教は主張します。キリスト教はそういう宗教なのです。

この世界は神が日々、私たち小さな人間のいのちを生き、苦しみを苦しみ、喜びを喜び、ともに死んでくださっている。世界がどんなに混沌とし、暗く冷たくとも、そこに神がいてくださる。私たちの一日一日は生きるに値する人生、大切な日々なのです。キリスト者はそう信じて、そう生きていく存在です。年末のあわただしさの中、今年もまた、クリスマスをすべての人と共に心から祝いたいと念じつつ。

**よろしくお願いいたします**

昨年、９月に日本に来られたグェン・ヴァン・トゥエンさんにお話をききました。

Q1.ベトナムはどちらの出身ですか

フンイエン省です。

Q2.洗礼を受けたのは何歳のときですか

０歳、1985 年です。

Q3.今はどこに住んでいますか

釧路町の豊美です。

Q4.どんなお仕事をしていますか

仕事は安定しておらず、給料も非常に低いです。家族を養うために安定して良い給料をもらえる仕事を見つけるために皆さんのご協力をお願いしたいです。

Q5.釧路での生活はどうですか

毎日、起きて歯を磨き、顔を洗い、朝食をたべて仕事に行きます。毎日は静かに過ぎていくけれど、心の中では少し寂しさを感じています。友達も少なく、家族もいません。それでも毎日、頑張っています。

Q6.釧路のどんなところが好きですか

日曜日にはミサに行き、キリストに会い、キリストの聖体をいただき皆さんと出会うことができるところです。

Q7.釧路教会の皆さんに伝えたいことはありますか

キリストの名のもと一つとなった皆様の健康と平和を祈ります。

### 編集後記

朝のやわらかな光を浴びると心がふっと軽くなる瞬間があります。忙しさの中でもそっと深呼吸をすると主を待つ静かな気持ちが戻ってきます。無理をせず、自分のペースで歩みを整えながら、迎えるこの季節。やがて訪れる降誕節には、救い主イエスが与えてくださる慰めと希望の光を感謝のうちにしっかりと受け止められますように（Y.S）

カトリック釧路教会　〒085-0018　釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823　　FAX 0154-22-5832

教会だより　編集：行事・広報部

「み言葉は肉となって、私たちの間に宿られた。私たちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、恵みと真理に満ちていた。いまだかつて、父を見たものはいない。父のふところにいるひとり子である神、この方が神を示されたのである。」（ヨハネ福音書１：１４、１８）

## 共にミサを捧げるために

**フランシスコ・アシジ　冨田　聡　神父**

ミサを祝うということは、私たちの人生の一コマではなく、その原点かつ目的です。私たちは神の国に行くために、その相応しい準備のために今の世界に生きています。ここで神の愛を知り、心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神を選び取るまでの愛に到達することこそ、人生の目的です。隣人愛は、この神の愛に向かう道の途上で達成されていくものであり、まず神様を第一に選び取るという土台がなければ、神様が喜ばれる隣人愛を生きることはできません。私たちはぶどうの木の枝であり、その根はキリストです。それ故に、十戒は「私の他に神があってはならない」という掟から始まります。

ミサの冒頭の回心の祈りの時に、私たちは十戒に照らして良心を究明します。大きな罪があれば告解しなければいけません。しかし、多くの人が、十戒ではなく自分の善悪の基準で罪を推し量っているのではないでしょうか。そうすると私たちは自分を神にしてしまっていることになります。自分の都合を優先して生きる時、ミサは人生の一コマ、時間のある時に行くべきものになります。しかし、神様は何を教えられたでしょうか。そこに立ち帰ること、自分の基準を手放すこと、これこそまことの回心です。

しかし、御父は決して私たちに無理難題を押し付けているのではなく、掟に従うために必要な全ての恵みをこのミサで与えようとされています。神の御子ご自身を与えようと、大きな愛で私たちを迎えて下さるのです。神のみ言葉を通して、そしてご聖体を通して、私たちを神の似姿に変えて下さる奇跡中の奇跡が、毎回のミサの中で起こっています。ご聖体以上の奇跡は存在しません。どんな奇跡的な病気の癒しよりもご聖体は偉大です。なぜなら、ご聖体は身体よりも心よりも深く私たちに浸透し、魂に働きかけ、永遠の命そのものを与えて下さるからです。果たして、このミサよりも優先すべきことは、他にあるのでしょうか。神様は６日間を私たちに下さいました。７日目を神様のために取っておくことが、どうしてここまで難しくなってしまっているのでしょう。

ですから、ご聖体を頂いても生活が代わり映えしないというのなら、それは私たちの側に責任があるのです。イエスは常に、癒された人には「あなたの信仰があなたを救った」と仰います。私たちが、本当に御父の掟を自分の掟として、誠実にゆるしの秘跡を受け、心からの求めをもってご聖体を頂くなら、イエスは今も同じ言葉を言ってくださるでしょう。なぜなら、あの時代生きていたイエスと、今ご聖体として現存しておられる方は、全くもって同じ方、同じ力を持っておられる方だからです。

## 北見教会巡礼

**テレジア・ベネディクタ　勇　まゆみ**

９月 23 日（月・祝）、13 名で北見教会へ巡礼に行ってきました。天候にも恵まれ、北見には 11 時過ぎに到着。内藤孝文神父様の司式により、ミサが執り行われました。

当日は「ピエトレルチーナの聖ピオ司祭」の記念日であり、神父様からは聖ピオ司祭のエピソードをいくつかお話しいただきました。厳格な司祭であったこと、赦しの秘跡をとても大切にしていたこと、そしてミサの最中に聖痕から出血する腕を押さえながら司式を続けていたというお話には、深い感銘を受けました。

ミサ後のお話では、内藤神父様と上杉神父様のお二人で北見地区の５教会を巡回しておられること、また、集会祭儀などにおいて信者の皆さんのご協力が大きな支えとなっていることなどを伺いました。

昼食は、内藤神父様を囲んで、北見教会の町田さんが用意してくださった豚汁や教会の庭で採れたブドウなどをいただきながら、和やかなひとときを過ごしました。

帰路では、途中、相生の道の駅に立ち寄り、買い物などを楽しみましたが、予定より１時間以上も早く、釧路に戻りました。

恵み豊かな１日を終えることができました。神に感謝！